

茫茫たる大地と、悠悠たる高き空、是れ萬物を生じて
われ人たることを得たり。われ人となりてより、運の
貧しきにあい、簞わだかと瓢ひょうとしばしば空しく、うすもの
を冬にも陳く。されど歡びを含んで谷に汲み、行く
ゆく歌うて薪を負いぬ。

(自ら祭る文)

陶淵明